

農事組合法人「越畑フレンドパーク」代表理事

大西恒治さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「都市農村交流施設としてそば処『まつばら』を開店し、経営を軌道に乗せることができて16年が経過した。今も設立時にお世話になった人たちとの縁を大切にしている」と話す京都市右京区嵯峨越畑の農事組合法人「越畑フレンドパーク」の代表理事・大西恒治さん(74)。

同地区は、愛宕山の北西に位置する標高約400以上の山間地。越畑と嵯原の2集落からなる岩陰地区では、約800枚もの棚田が広がり、四季の花に囲まれ「にほんの里100選」にも選ばれている。半面、厳しい農業・生活環境のため若者が定着せず、何かを起

こさなければ、という思いで同法人を立ち上げた大西さんは振り返る。

まずは自分たちでもできることとして、都市住民との交流に取り組んだ。大西さんがリーダーとなつて1990年に観光農園を、95年には同法人の前身となる「越畑フレンドパーク実行組合」を結成してブドウとリンゴの観光用果樹園を開いた。

山間地の昼夜の温度差が糖度の

高いブドウ生産を実現し、秋にはたくさんブドウを買い求める人でにぎわった。それでも大西さんは秋の買物客だけではこの地の本当の良さを満喫してもらえていないと満足できなかった。

そんな中、自分たちが作ったそばで店を出そうと話を持ち上がり、京都市の強力なバックアップを受けて、99年8月に有志13人で同法人を設立し、同市、府、国の補助事業を活用して都市農村交流

施設として翌年5月に「まつばら」を開店した。

「そばの専門店では修行したが、本当にこんな山間地まで客が来てくれるのか。借金は返せるのか。眠れない日が続いた」と当時の胸の内を語る。同地区のみんなが一つになって頑張り、同市や府の広報、テレビ番組で紹介されて口コミで評判が広がり休日には約150人が来店する繁盛店にすることができた。借入金も2010年に完済した。

大西さんは、「世代交代が最大の課題だが、地形を生かして山中に藤棚や桜、紅葉など花に囲まれた里づくりを実現したい。これが新しい魅力になって、都市の皆さんに何度も訪れてもらえるようにしていきたい」と話す。

■法人所在地 京都市右京区嵯峨越畑鍋浦109の1、(電)0771(44)2700。

■法人概要 1999年8月設立。理事3人、監事1人、パートタイマー8人。ブドウ50畧、リンゴ30畧。

そば処「まつばら」営業時間は午前11時～午後4時(12月～3月は午後3時まで)。

棚田の里を守りたい

▶人気のブドウの管理をする大西さん

